JAPAN
Institutional Gateway

Supported by the University of Tsukuba

Introducing Japan Institutional Gateway

Open Researchへの取組み

この度2020年にLaunchしました筑波大学GatewayがJapan Institutional Gatewayとして2022年8月23日にリニューアルいたしました。Japan Institutional Gatewayは筑波大学がサポーターとなり日本のすべての研究機関がAffiliates（協賛機関）として参加することが可能となります。参加機関様は専用のGateway Areaを持ち、機関名とロゴが目立つように表示され、Gateway Advisorを指名することができ運営に参加することができます。是非、Open Access/Open Research 出版への取り組みを始めたいがどうしたらいいか分からないという機関様はお問合せください。

F1000Research

F1000Rは2013年にサービス開始。学術コミュニケーションを再考し、研究助成機関や学術機関とのパートナーシップを重ねて発展して参りました。Open Research の柱である（1）Open access、（2）Open data & code、（3）Open Peer reviewを実現する出版プラットフォームです。

筑波大学Gateway

- 2020年11月開設
- 2021年には16論文を出版
- 16論文が査読を通過しScopus、PubMed等の書誌データベースに収録
- 現在までの全論文の閲覧数 約36,800回、ダウンロード数は約17,000回

Affiliates（協賛機関） になるには

専用のGatewayエリアには、各機関様のロゴが表示されます。各機関様のOpen Access、Open Researchの成果を一か所に集めておくことができる点が大きなメリットです。

参加合意書（MoU）にご署名頂くことで参加頂けます。参加機関様は年間5本の論文をゲートウェイで発表することを目指して頂く事になります。MoU締結後1週間以内に提携ゲートウェイ・エリアを構築可能になります。

著者が支払うAPC (Article Processing Charge)はArticle type別に金額が異なりますが、$823~1390となっております。

英語と日本語の両方*で投稿・出版することが可能です。

*社会科学と人文科学のすべての研究分野について、英語だけでなく日本語論文の投稿も歓迎します。

イメージ図

F1000 | Taylor & Francis

東野篤子（人文社会系教授）のコメント

2020年はコロナ禍のため、せっかくプロポーザルがアクセプトされていた海外の学会がすべてキャンセル・延期となってしまいました。このため、英語論文を口頭発表しフィードバックを得て、査読付ジャーナルへの投稿準備を進めるという通常のプロセスがストップしてしまい、困っていたところ、同僚が筑波大学ゲートウェイの投稿を勧めて下さいました。査読前の論文をウェブ上に掲載し、その後にコメントをもらうという筑波大学ゲートウェイは、私が主に論文を発表してきた海外学会の方式とも近く、すんなりとなじむことが出来ました。また論文を筑波大学ゲートウェイに投稿して掲載されるまでの期間、F1000社の編集チームが非常に丁寧なエディティングやフォーマティングを行ってくれたのも、大変ありがたいことだと思っております。

2021年3月2日に論文が掲載されてから、およそ1週間で、特段の宣伝をしていなくともページビュー数が100を超えており、研究成果発信のための非常に強力なツールであると実感しました。唯一のネックは投稿費が高額（1350ドル）なことだと思いますが、今回は人社系による投稿費支援に採択していただけ、大変助かりました。コロナ禍における新しい研究発信形態のひとつとして、今後とも活用したいと考えております。

DOI: 10.12688/f1000research.51085.1

矢作直也（医学医療系准教授）のコメント

今回投稿させて頂きました論文は、これまでに5つの雑誌から掲載を拒否されてきた論文でしたが、筑波大学ゲートウェイではスムーズに掲載が決まり、レビューアーからも高いご評価を頂くことができました。また、「この論文をぜひ読んで頂きたい」という方々をレビューアー候補として編集部に推挙させて頂き、結果的にそういう方々に実名でレビューして頂けたのも大変幸せな経験でした。「rejectされない安心感」「読んで欲しい方にレビューしてもらえる」この2つのメリットは非常に大きく、ちょっと病みつきになりそうです。

DOI: 10.12688/f1000research.27532.2

秋山 肇（人文社会系助教）のコメント

新型コロナ対策について、日本国憲法の観点から研究しています。社会的関心の高いタイムリーな話題ですので、日本の一般の方にも読んでいただける日本語論文を即時的に発表したいと考えていました。また、自然科学の研究者も使用するF1000Researchの一部である本ゲートウェイに掲載されると、新型コロナを研究するグローバルな研究者にも、英文抄録を通して日本の法的な議論に触れていただけるため、意義があると感じ、本ゲートウェイに投稿しました。即時的に日本社会とグローバルな研究者双方に研究成果を発信できるのが、本ゲートウェイの魅力です。また、公開で査読が行われますので、恥ずかしくもありますが、学生に論文執筆のプロセスを見せられるのもメリットだと思います。

DOI: 10.12688/f1000research.50861.2

伊藤秀明（人文社会系准教授）のコメント

筑波大学ゲートウェイに投稿した動機は迅速な査読体制と投稿者による査読者の推薦という形式に興味を持ったことにあります。これまでの投稿では、数ヶ月、長い時には数年、投稿しては査読者の評価を待つという受け身な姿勢を歯がゆく感じることもありました。筑波大学ゲートウェイでは、同じく査読者の評価を受けるという点は変わりませんが、論文が査読前から公開されることにより査読者のコメントも多様な研究者の一つであり、その評価を論文に反映させ、さらに深めていくということが可能になりました。これは投稿者による査読者の推薦も上記のような点を考える際に、世界中の研究者に投稿者が主導して意見を求めることができるという点で、これまでの受け身な査読体制とは異なる大きなメリットだと感じています。

DOI: 10.12688/f1000research.36372.2

研究者からの声

Japan Institutional Gateway URL:
https://f1000research.com/japan-institutional-gateway

提供資料内容の問い合わせ先

Taylor & Francis Group
東京都千代田区神田神保町1-54-4 JHVビル 9F
Email: partnerships@f1000.com